

印象に残る教師像

——現職教員への質問紙調査を通して——

二宮 克美*¹・山本 ちか*²・杉山 佳菜子*³

キーワード：教師像、理想とする教師、嫌いなタイプの教師、現職教員、
質問紙調査

小学校・中学校・高等学校でもっとも印象に残っている先生について、現職教員に質問紙を実施し自由に記述してもらった。また、理想とする教師像、嫌いな教師像、自分が生徒から「どのような先生」とみられているかについても回答してもらった。調査協力者90名の内訳は、男性35人（小学校勤務9人、中学校勤務10人、高校勤務16人）、女性55人（小学校勤務32人、中学校勤務12人、高校勤務11人）であった。主たる結果として、印象に残っている教師は、ポジティブなイメージが多く、男性で40代の先生があげられることが多かった。理想とする教師は、教師のもつ性質では、親しみやすく、穏やかで、楽しく明るい先生であった。また、子ども（児童・生徒）を受容し、親身になって寄り添いつつ、厳しさや明確さがある対応が理想とされていた。嫌いなタイプの教師は、自分の考えばかりを優先させ、児童・生徒に伝わるような適切な指導ができないことや、児童・生徒へ適切な態度が取れないという先生であった。仕事に対しての取り組みが悪い教師は、同僚から嫌われやすいタイプであった。自己認知像について、自分は厳しい指導者であるという回答が多かったものの、性格に関しては、ポジティブなイメージを持っている者が多いことが分かった。

問題および目的

学校の教師は、子どもたちが親以外に多くの時間出会う大人である。子どもたちは、小学校・中学校・高等学校の学校段階でどのような教師に強い印象を持っているのだろうか。この問題意識のもと、大学生100人（教職志望の有無、性別、学年などを考慮）に半構造化面接を行った。その主たる結果は、以下のとおりであった（二宮・山本・杉山、2019）。

*¹ にのみや かつみ 総合政策学部

*² やまもと ちか 本学非常勤講師（名古屋文理大学短期大学部）

*³ すぎやま かなこ 本学非常勤講師（鈴鹿大学こども教育学部）

- ①学校移行の時期に、印象に残る教師との出会いがある。
- ②印象に残る教師の年齢に目立った傾向はない。
- ③担任の教師が印象に残る割合が高く、その傾向は女子学生に多い。
- ④クラブよりも教科の先生を印象に残る教師としてあげる割合が高い。
- ⑤教職志望の学生は、「今の自分にその先生が与えている影響がある」という回答であり、教職を志望するきっかけになっているようである。
- ⑥理想とする教師は、寄り添ってくれる、めりはりのある対応をしてくれる先生であった。
- ⑦嫌われるタイプの教師は、価値観を押し付ける、感情的になる、平等に扱って欲しくない、生徒に関心を寄せない先生であった。

今回、現職教員の免許状更新講習の機会に、現職の先生方の了解を得て、質問紙を実施した。その結果を報告する。

方 法

1. 調査協力者

A県ならびにM県の大学で、教員免許状更新講習に参加した先生のうち、回答に協力してくれた方であった。その中から小学校・中学校・高等学校勤務の先生90名の回答を分析対象にした。内訳は、男性35人（小学校勤務9人、中学校勤務10人、高校勤務16人）、女性55人（小学校勤務32人、中学校勤務12人、高校勤務11人）であった。教職歴は、10年59人、20年13人、30年16人、無回答2人であった。

2. 説明と同意

教師像に関する調査という標題の質問紙を用意し、以下の教示文を示した。

『この調査は、教師像についてお尋ねするものです。この調査は強制ではありません。あくまでもご協力をお願いするものです。お答えいただいた内容は、研究以外の目的に使用することはありません。個々の回答内容については秘密を厳守します。回答内容は全体的に集計し、日本教育心理学会などで発表予定です。この調査に回答していただいたことによって、研究にご協力いただくことの許諾を得たものとして扱わせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。』

なお、本研究を実施するに際し倫理審査を愛知学院大学総合政策学会研究倫理委員会に提出し、許可を得ている。

3. 調査内容

I. あなた自身についておうかがいします。該当するものの番号に1つ○印をつけて下さい。

この教示で、以下の3項目に回答してもらった。

(1)性別、(2)教職歴、(3)校種

II. 小学校・中学校・高等学校で、いろいろな先生に出会われたと思いますが、その中でももっとも印象に残っている先生について、おうかがいします。その先生は、どんな先生でしたか。自由にご回答下さい。

その後、以下の問いに回答してもらった。

1. あなたがその先生に出会ったのはいつですか。

(小学校・中学校・高等学校) (1・2・3・4・5・6年)

2. 性別 (男性 ・ 女性)

3. その先生の当時のおおよその年齢は、いくつくらいでしたか。(歳くらい)

4. その先生のイメージはどうでしたか。(ポジティブ・ネガティブ)

5. 何の先生でしたか。(教科_____あるいは クラブ_____)

6. クラスの担任の先生でしたか。(はい ・ いいえ)

7. 今現在のあなたにその先生が与えている影響はありますか。(ある ・ ない)

III. あなたが理想とする先生は、どんなタイプの先生ですか。自由にご回答下さい。

IV. あなたが嫌いなタイプの先生は、どんなタイプの先生ですか。自由にご回答下さい。

V. あなたは、生徒から「どのような先生」とみられていると思いますか。

(推測で構いません。)

4. 調査時期

2019年(令和元年)6月末および8月上旬。

5. 調査時間

概ね10分程度。調査協力者のペースに合わせ、多少の時間のゆとりを持たせた。

結果と考察

1. 印象に残った教師像

(1) 教師の性別：男性=50人、女性=30人、無回答=5人。

印象に残った教師は男性であるという結果であり、豊田(1996)や二宮・山本・杉山(2019)の結果と同様であった。調査協力者の性別と印象に残った教師の性別で、有意差

がみられた ($\chi^2=6.15, p<.05$)。男性は男性教師を、女性は女性教師を印象に残った教師としてあげることが多かった。この結果は、大学生の結果と同じであった。

(2) 教師と出会った時期：小学校=27人、中学校28人、高校28人、その他7人。

出会った時期は、小中高校でほぼ同数であった。

(3) 教師の年齢：20歳代=9人、30歳代=25人、40歳代=35人、50歳代=18人、無回答=3人。

印象に残る教師の年齢による差で見られ ($\chi^2=16.68, p<.01$)、40歳代の先生が印象に残っていることがわかった。

(4) イメージ：ポジティブ=82人、ネガティブ=4人、無回答=4人。

印象に残る教師は、圧倒的にポジティブ・イメージが多い。なお、ネガティブ・イメージ4人の内訳は、男性1人、女性3人であった。

(5) 担任かどうか：はい=55人、いいえ=33人、無回答=2人。

担任の先生の方が印象に残る割合が多かった ($\chi^2=5.50, p<.05$)。調査協力者の性別と印象に残った教師が担任か否かでは、有意差は見られなかった ($\chi^2=0.40, n.s.$)。

(6) 印象に残る先生の教科・クラブ：教科=58人、クラブ(課外教育)=23人、無回答=2人(複数回答あり)。

教科の先生を印象に残る教師としてあげる割合が高いと言える。調査協力者の性別による差は見られなかった (*n.s.*)。

(7) その先生が与えている影響：あり=71人、なし=16人、無回答=3人。

先生が今現在の自分に与えている影響があると回答している人数が多い ($\chi^2=34.77, p<.01$)。

(8) 代表的な記述

87人の自由記述が得られ、それぞれに貴重な回答であった。総じて、以下の語句が多く用いられていた。「親身」、「寄り添う」、「笑顔」、「熱い(熱心)」、「厳しい」、「明るい」。

すべてを紹介するスペースはないが、代表的な記述を5つ紹介しておく。

■ポジティブ・イメージ

〈男性・小学校勤務・教師歴20年〉 知識が非常に豊富で話がとても分かりやすい。もともと得意科目だったが、さらに成績を向上させることができた。

〈男性・中学校勤務・教師歴30年〉 博識であった。質問にサッと答えることができる先生だった。

〈女性・中学校勤務・教師歴30年〉 わりと熱血タイプ。授業はとてもわかりやすかった。私が具体的に英語教師をめざそうと思ったきっかけとなった先生。

〈女性・高校勤務・教師歴10年〉 普段は友だちのように気さくに接してくれて相談とかもしやすい反面、とても厳しい面をもっていてちゃんと叱ってくれる先生でした。

■ネガティブ・イメージ

〈女性・中学校勤務・教師歴10年〉 気持ちに波がある。きめつけ、ひいきがあり、すぐ怒る。体罰もあった。

2. 理想とする教師像

理想とする先生は、どんなタイプの先生かたずねた結果、合計170の内容がみられた。これらについて、「教師の性質」、「教授・指導」、「教師の対応」の点から、分類を行った。これらの分類に当てはまらないものは、「その他」とした。

(1) 教師の性質

「教師の性質」に関しては、56の内容がみられた (Table 1)。最も多かったのは、親しみやすい、話しやすい、近寄りやすいなど「親しみやすさ」についてであった。次に多かったのは、「穏やかさ」、楽しい、面白い先生といった「楽しさ・面白さ」といった内容であった。「明るい」、「前向き」、「信頼できる」、「目配り」、「人としての魅力」、「頼りがい」についても複数の回答がみられた。その他には、包容力がある、個性的である、決断力がある、誠実であるといった性質に関する記述がみられた。

Table 1 「教師の性質」に関する記述 (理想)

	度数		度数
親しみやすさ	9	信頼できる	3
穏やかさ	5	目配り	3
楽しさ・面白い	5	人としての魅力	3
明るい	4	頼りがい	2
前向き	4	その他	16

※回答が複数みられた内容のみ具体的に記載

(2) 教授・指導

「教授・指導」については、25の内容がみられた (Table 2)。回答が多かったのは、「授業の上手さ」と「知識の豊富さ」についてであった。「授業の上手さ」については、授業がわかりやすい、授業がうまいといった内容が主であった。具体的な授業方法についての記述はほとんどみられなかった。また、学ぶ意欲を引き出す、学ぶ感動を共有できるといった「学習意欲の引き出し」、授業が面白い、楽しいといった「授業の楽しさ」、「指導力」についても複数の回答がみられた。その他には、熱心な授業、自己肯定感を高める指導についての記述がみられた。

Table 2 「教授・指導」に関する記述 (理想)

	度数		度数
授業の上手さ	6	授業の楽しさ	3
知識の豊富さ	6	指導力	3
学習意欲の引き出し	4	その他	3

※回答が複数みられた内容のみ具体的に記載

(3) 教師の対応

「教師の対応」については、67の内容がみられた (Table 3)。最も回答が多かったのは、子どもを受け止める、子どもの存在を認める、生徒に理解を示すといった「受容」についての回答であった。次いで回答が多かったのは、話をちゃんと聴いてくれる、しっかり耳を傾けるといった「傾聴」、親身になる、子どもに寄り添うといった「寄り添い・親身」、きちんと叱ることができる、厳しさをきちんと持っているといった「厳しさ・叱る」であった。

子どものことをしっかり考える、一番に児童・生徒のことを考えるといった「子どものことを考える」、はっきりしている、いいものはいい悪いものは悪いとはっきりしているといった「明確な対応」、支えることができる、困った時に手を差し伸べるといった「サポート」、公正・公平である、平等に接するとといった「公平」、生徒の立場に立って考える、同じ目線で話を聴くとといった「子どもの視点に立つ」、一貫した指導をする、言うことが変わらないといった「一貫した対応」といった回答も複数みられた。

その他には、子どもとともに挑戦するといった「子どもとの共行動」、生徒と向き合うといった「向き合う」、生徒の個性に合わせた指導をするといった「個性に合わせた指導」、「居場所」、「自主性の尊重」、「対話」があること、「めりはり」のある対応についての内容がみられた。

Table 3 「教師の対応」に関する記述 (理想)

	度数		度数
受容	8	公平	4
傾聴	7	子どもの視点に立つ	4
寄り添い・親身	7	一貫した対応	4
厳しさ・叱る	7	子どもとの共行動	2
子どものことを考える	5	向き合う	2
明確な対応	5	居場所	2
サポート	5	その他	5

※回答が複数みられた内容のみ具体的に記載

(4) その他

上記に分類できなかった「その他」については、22の内容がみられた。信念を持った教育活動といった「仕事に対する信念」、楽しく仕事をするといった「仕事に対する楽しさ」、など、仕事の対する姿勢について、複数の記述がみられた。その他は、挨拶ができる、会話を覚えている、人間性を否定しない、なりたい大人としてのモデルとなる、子どもの笑顔を引き出すといった内容であった。

3. 嫌いなタイプの教師像

「あなたが嫌いなタイプの先生は、どんなタイプの先生ですか」の質問には、143（無回答5）の回答があった。これらを「授業・指導」「人への対応」「教師の性質」に関する回答の3つに分類を行った。

(1) 授業・指導

Table 4 「授業・指導」に関する記述（嫌い）

	度数		度数
叱り方	8	指導方法	3
押し付け	6	授業の内容	2
児童・生徒への態度	4	指示の出し方	1

「授業・指導」には24の回答が分類された。そのうち、最も多かったのは「ダメなこと等、子どもに指導できない」「伝わらない怒り方をする先生」などの「叱り方」であった。次に多かったのは「自分のやり方を認めてくれない、否定して、その先生が認められる形にしないと叱責してくる先生」「大きい声でどなり、圧力をかけるような先生」という「押し付け」であった。その他、「生徒のことを考えない」などの「児童・生徒への態度」、「理論ばかり、口ばかりで実行しない先生」といった「指導方法」や「テストばかり」などの「授業内容」に関することなどの回答があった。

「授業や指導」に関しては、授業スタイルというよりも教師の態度が嫌われる要因となることが推測される。自分の考えばかりを優先させ、児童・生徒に伝わるような適切な指導ができないことや、児童・生徒へ適切な態度が取れないということが、嫌いなタイプの先生と言える。

(2) 人への対応

「人への対応」には57の回答が分類され、このカテゴリーに分類される回答が最も多かった（Table 5）。そのうち、最も多かったのは差別する、平等でない扱いをするなどの

「差別的」であった。決め付ける、押し付けるといった「決め付け」タイプの先生や、「生徒のことを考えない」「子どもを見ていない」といった「児童・生徒を見ていない」タイプの先生、「高圧的・威圧的」なタイプの先生についての回答が多かった。その他、「質問をしてもめんどくさそうに返す」などの「めんどくさそう」な態度や「言うことと行動が違う先生」という「言動不一致」などの回答があった。

Table 5 「人への対応」に関する記述（嫌い）

	度数		度数
差別的	11	言動不一致	2
決め付け	10	理不尽	2
児童・生徒を見ていない	10	見てみぬふり	2
高圧的・威圧的	10	生徒に流される	1
見下す	4	過干渉	1
めんどくさそう	3	集団意識を植え付ける	1

児童・生徒、および同僚を含む人への対応については、差別的な言動をする、高圧的・威圧的に自分の意見を押し付けるような教師は嫌いなタイプの先生と言える。その他、児童・生徒に真摯に対応しない教師も嫌われやすいと言える。

(3) 教師の性質

「教師の性質」に関する回答には61の回答が分類された (Table 6)。「固定観にとらわれ、多様な価値観を認められない古いタイプの先生」「自分が生徒を変えてやる！と信じてやまない傲慢な人」などの「固執・思い込み」に関する回答と「なんとなく毎日を過ごし、なんとなく教育活動に取り組む先生」「やる気がない」「自分の思いを持っていない」といった「いいかげん」な先生に関する回答が多かった。「暗い」「冷たい」「怖い」などの性格に関する「ネガティブなイメージ」の回答も多かった。その他、「自己中心的」な先生や「仕事をしない」先生に関する回答があった。「仕事をしない」ことや「子どもの悪口を言う」「子どもが好きではなさそう」という「否定的な言動」については、同僚という立場からのイメージであり、大学生が語った嫌いな先生のイメージではみられなかった内容である。

考え方が柔軟でないことや自己中心的な考え方の教師は嫌われるタイプと言える。また、ネガティブは言動や性格も嫌われる要因となりうる。そして、仕事に対しての取り組みが悪い教師は児童・生徒からではなく、同僚から嫌われやすいタイプと言える。

Table 6 「教師の性質」に関する記述（嫌い）

	度数		度数
固執・思い込み	9	責任転嫁	2
いいかげん	9	感情的	2
ネガティブなイメージ	8	子どもが嫌い	2
自己中心的	6	気分屋	2
仕事をしない	4	利益主義	1
否定的な言動	4	言葉がきたない	1
問題解決能力の不足	3	正義をふりかざす	1
うるさい	3	話が長い	1
頭ごなし	3		

(4) その他

「わからない」という回答が1名いた。また、上記の3つのカテゴリーに分類できなかったものには、「くさい」という身なりに関するもの、「締め付けが強く、他の教師と同じことばかりやって新しいことをしない（オリジナリティの無い）教師」という仕事へのスタンスである。その他、多くが教師の立場から嫌いなタイプの同僚像を回答していると思われるものが多い。中には、「中学の時に不当ないじめのような扱いを体育の女性教師に受けました。全体の前で一人ラジオ体操を何度もやらされた記憶は忘れられません。」という自身の体験の回想から嫌いな先生イメージを回答した者がいた。

4. 自己認知像

「あなたは、生徒から「どのような先生」とみられていると思いますか。」という質問に対して、90の回答（無回答10）があった。これらの回答を「授業・指導」と「性格」の2つのカテゴリーに分類した。

自己認知像は90の回答のうち、12の回答が「優しいが怒ると怖い」のように対極のイメージが記述されていたが、このような場合は最初に書かれた自己認知像をカウントした。

(1) 授業・指導

「授業・指導」に関する自己認知像に、14の回答を分類した（Table 7）。「ルールに厳しい」「厳しいが一緒に遊んでくれる」などの厳しい指導者であるという回答が多かった。「指導方法」には「わかりやすい」「ノートをしっかりと見てくれる」、「授業スタイル」には「楽しそうに授業をしている」「急がせることが多い」を分類した。

14の回答のうち、ポジティブと思われる回答は6、ネガティブだと思われる回答は7、

どちらとも判断がつかなかった回答は1つであった。授業・指導に関しては特にポジティブなイメージとネガティブなイメージのどちらが多いともいえない結果であった。

Table 7 「授業・指導に関する自己認知像」

	度数		度数
厳しい指導	5	授業スタイル	2
甘い	3	不慣れを見抜かれている	1
指導方法	2	新しい考えを教えてくれる	1

(2) 性格

「性格」に関する自己認知については62の回答を分類した (Table 8)。最も多かったのは「親しみやすい・話しやすい」という自己認知像であった。一方で、「怖い」という自己認知像も多かった。「雰囲気」には「暇そう」「おばさんという存在」などを分類している。

62の回答のうち、ポジティブと思われる回答は34、ネガティブと思われる回答は14、どちらとも判断がつかない回答は14であった。ポジティブなイメージの性格に関する自己認知像を持っている者が多いことが推測される。

Table 8 「性格に関する自己認知像」

	度数		度数
親しみやすい・話しやすい	9	変わっている	2
怖い	7	怒る	2
優しい	7	声大きい	2
助けてくれる・安心できる	5	細かい	2
明るい	4	楽しい	2
雰囲気	4	熱血教師	1
まじめ	3	めんどくさがり	1
元気	3	冷静	1
笑顔	3	多重人格	1
子どもっぽい	3		

まとめ

本研究は、現職教員90名に、教師像に関する調査を行った結果を分析したものである。そのまとめとして、以下の7点を指摘しておく。

①印象に残る教師像の年齢は40歳代である。年齢による目立った傾向はないという大学

生の結果とは異なっていた。

- ②担任の教師が印象に残る割合が高く、大学生と同じ結果であった。
- ③教科の先生を印象に残る教師とあげる割合が高く、大学生と同じ結果であった。
- ④先生が今の自分に影響を与えているとする回答が、大学生と同様に多く、印象に残る教師が大きな影響を及ぼしていることがうかがわれる。
- ⑤理想とする教師は、親しみやすく、穏やかで、楽しく明るい先生であった。また、子ども（児童・生徒）を受容し、親身になって寄り添いつつ、厳しさや明確さがある対応が理想とされていた。
- ⑥嫌いなタイプの教師は、自分の考えばかりを優先させ、児童・生徒に伝わるような適切な指導ができないことや、児童・生徒へ適切な態度が取れないという先生であった。仕事に対しての取り組みが悪い教師は、同僚から嫌われやすいタイプであった。
- ⑦自己認知像について、自分は厳しい指導者であるという回答が多かったものの、性格に関しては、ポジティブなイメージを持っている者が多いことが分かった。

〈付記〉 本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

結果と考察の「1. 印象に残った教師像」は二宮、「2. 理想とする教師像」は山本、「3. 嫌いなタイプの教師像」と「4. 自己認知像」は杉山が分担し、それぞれ執筆にあたった。しかし論文全体に対して平等に意見を出し合って執筆したので、本人分担部分を明確に抽出することはできない。

文 献

- 二宮克美・山本ちか・杉山佳菜子(2019) 印象に残る教師像—大学生への半構造化面接を通して—, 愛知学院大学教職支援センター年報, 第1号, 3-15.
- 豊田弘司(1996) 回想された好きな教師と嫌いな教師像, 奈良教育大学教育研究所紀要, 32, 125-131.